

# 未来



全労協・郵政産業労働者  
ユニオン長崎中郵支部  
機関紙・「みらい」  
NO. 4374  
23年8月18日(金)  
Tel・Fax 095-828-1953

おはようございます。

# 携行監視ツール Dcat!?

立秋・お盆も過ぎましたがまだ暑い日が続いています。今夏も集配営業部（以下、集配）では、複数の社員が熱中症と思われる症状でダウンしました。業務に追われ頑張るすぎるのが「郵便屋さん」の常です。自分自身はもちろんですが、他の社員にも気遣い・声掛けをして、皆で残暑を乗り切りましょう。

2021年4月、集配に、「Dcat(ディーキャット)」が本格導入されました。昨年4月時点で会社全体で約7万5000台が配備されています。長中局でも昨年4月から小包担当者を含む混合区にも導入され、今では集配のほとんどの社員がDcatを持たされています。

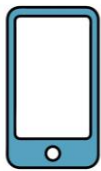
Dcatでは、速度情報、位置情報、走行軌跡、所用時間、移動距離などのデータを、リアルタイムで管理者等のパソコンに送ることで、安全管理や業務適正化に使うとされています。

このため管理者などが配達担当者の急加速、急減速、速度超過の状況確認や配達ルートの重なりのほか、長時間停止アラート通知などを注視しています。また一般社員でも端末上で、他の班員の現在地や進捗率を見る事ができますなど様々な機能があります。



Dcatの略は「配達コミュニケーション支援ツール」ですが、皆さん配達を支援されたことはいくらもあるでしょうか。私には、前述の機能からわかるようにDcatは「集配に携わる

社員を監視する」ツールの意味合いが強い気がします。



例えば、15分以上停止している時間があると数日後に「何故15分以上停止していたのか」、その理由を専用の紙に書き、提出しなければなりません。今の時期は暑いので、体調が悪く休んで居るかも知れませんが、小包応援で到着まちなど様々な理由があると思われれます。

このようなレポートを提出させられると、集配社員が配達をサポートしているとでも思っているのかと疑ってしまいます。看板の「安全管理」の為にこのレポートを出させるよりもその都度連絡して安全確認を行ったらどうでしょうか。60分停止しないと通知されない長時間アラートを待たなければ、助かる命も助からなくなりますが、本当に社員の安全を考えるのであれば、の話ですが…。

また毎週、Dcatの結果が数字とグラフで班に配られます。急加速・急減速が前の週より急激に増えた社員は「安全対話」があります。

安全対話の内容をまとめると、「急加速、急減速の回数について自身どう感じていますか？」や速度超過について、「今週の安全運転の取り組み目標について聞かせて下さい」や今後も安全最優先の業務を徹底して下さいなど、締めに行動目標の設定があります。これにプラスして随伴もあると部長から聞きました。

「安全対話」も交通事故防止の観点から大事だとは思いますが、ただ私の場合、混合区の際に急加速、急減速が多く出ている傾向があります。通配区の場合では、急加速・急減速が多く出ている時の話を聞くと、配達部数が多い日に増えてしまう傾向がわかります。支援ツールとして運用しているなら、何故その日に多く出たのか、その日の業務量も一緒に見るべきです。混合区、通配区共にあきらかに業務量

が多い日の方が、急加速・急減速は多く出ていると思います。

削られた混合区を復活させる、夜勤の小包の担当社員を中勤にするなどして、時間に余裕を持たせて焦る事なく配達が出る環境になれば、急加速・急減速は少なくなると思います。



「無理をさせ、無理するな、と無理を言う」この句は第一生命が主催していた「サラリーマン川柳」で歴代最高と言われる句です。

安全対話だけで、急加速・急減速が減るなら苦労しません。誰もが安全な運転での配達をしたいと思っています。もしDcatが「監視ツール」でないというならば、集積された配達区独自の課題を分析し、安全運航のための配達区を作るなどに活用するべきです。個人の意識に頼らない安全管理ができてこそ、Dcatを活用してると言えるでしょう。

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員の希望を全員の正社員化を。

ゆげ、均等待遇、なげんき差別。

ユニオンは労基法裁判に勝利したぞ！

